

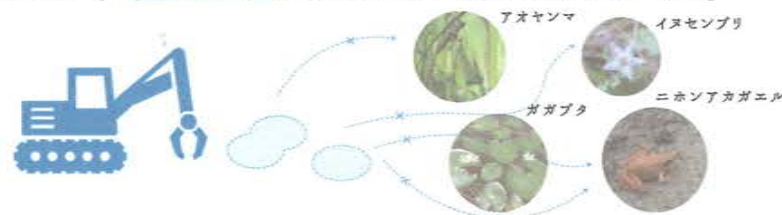
1. 「水たまり」は小さな世界

子供の頃、畑や道路に出来たほんの小さな水たまりに夢中になっていました。大人になった今でも、水たまりがあれば覗き込んでしまいます。



2. 「水棲生物」の絶滅の危機

カエルをはじめとした両生類や魚類、水棲昆虫たちは水たまりという環境で人間と共に共生してきました。しかし、開発圧力により道路は舗装され、畑や田んぼは年々減っています。それにより住み処を失い、絶滅危惧種に指定されている種も存在しています。



3. 水たまりこども園

水たまりを中心とした保育園を提案します。ここでの水たまりは偶発的に現れるもの、ビオトープのような人工自然など広く定義します。それらを肯定する建築が近い将来、絶滅の危機に瀕するかもしれない生き物に居場所を与え、見守ります。それは全ての生き物にとっての旅立ちの場、そして時にふと思い出す故郷のような「原風景」となるのではないのでしょうか。

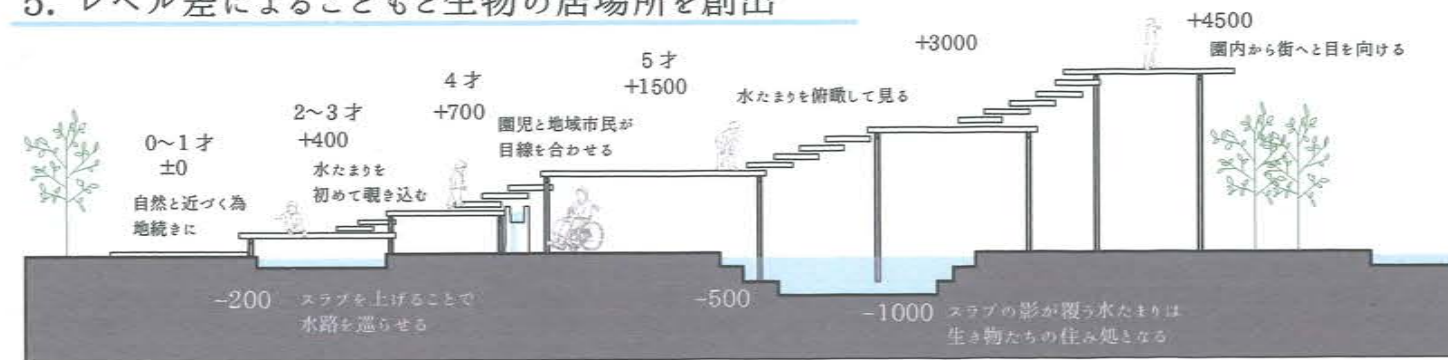


4. 保育と自然の共生

幼児期に、自然と触れ合うことによって、自然の摂理を感覚的に理解し、自分以外の小さな命の存在を受けとめ、生き物を大切に思う気持ちを育むことが大切です。生き物に親しむということは、人と自然が「共生」していく上で必要な感性であり、多くの事象を受容できる力を養うことに繋がります。

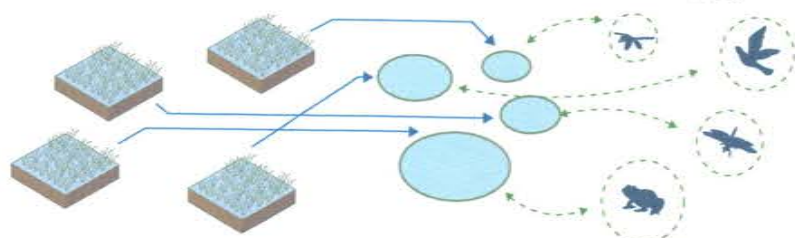


5. レベル差によるこどもと生物の居場所を創出



6. 繋がる水路 -生き物たちは住み処を求めて-

周辺に存在する4つの畑から少しずつ農業用水路を引き込み、水たまりの維持に使用します。水たまりが街に繋がり、また住み処を求め、たくさんの生き物たちがこども園に集まります。彼らは、こどもたちにとって想像を超えた学びを教授する自然の先生のようなになるでしょう。



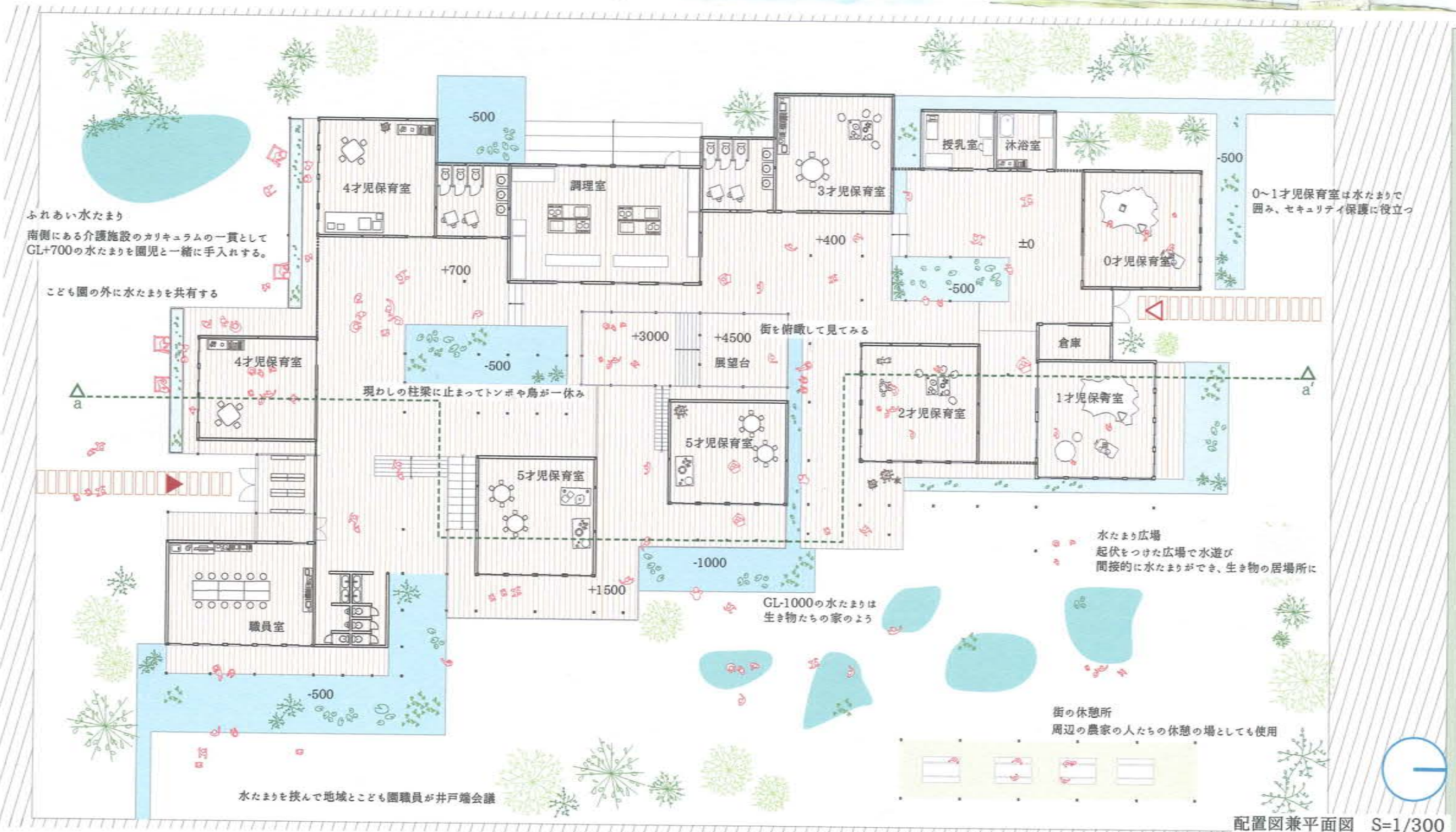
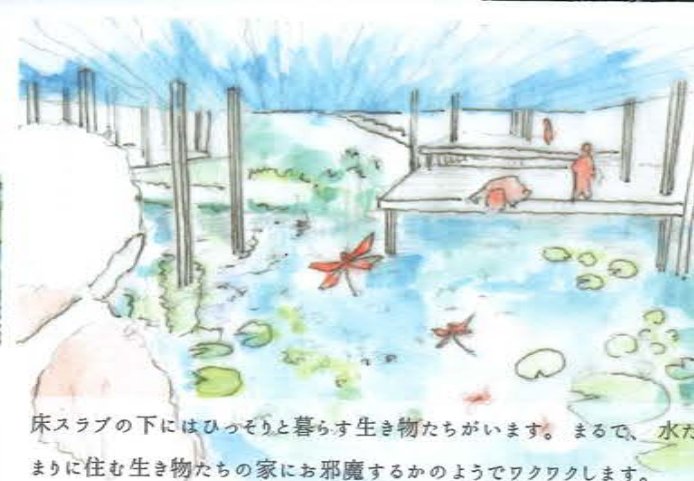
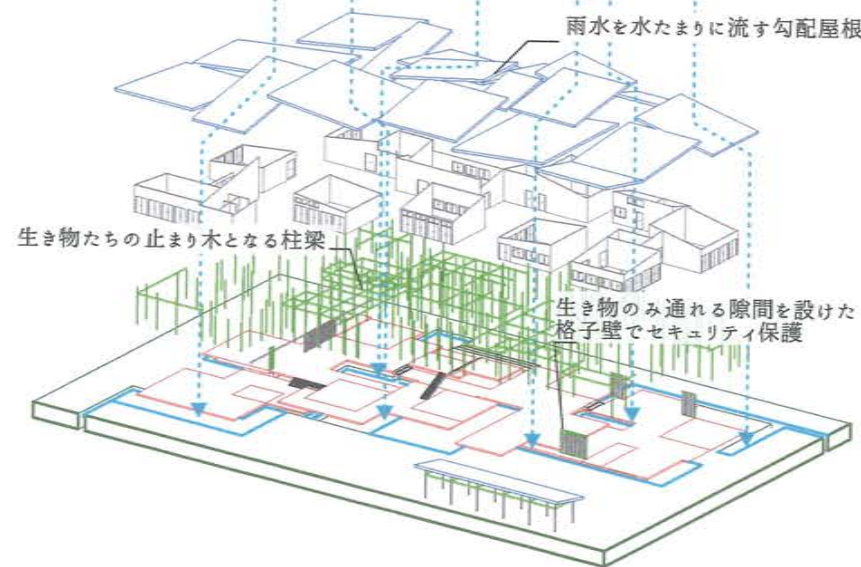
7. 水あそびで間接的に生き物たちの居場所作り

水たまり広場では、こどもたちは水を使った遊びを楽しみます。地面に設けられた起伏には自然に水たまりが出来ていきます。生き物たちは仮設的にできた水たまりに寄り道するかもしれません。こどもたちの遊びが間接的に生き物たちの居場所を作ることに繋がるのではないのでしょうか。



8. 水たまりを見守る建築要素

水たまりを主とし、天気を味方にした建築要素で構成します。こども園としての機能を満たしながら、生き物たちの小さな居場所を作ります。



9. こどもたちと水棲生物の共生と繁栄の未来を見守る

